

## 十勝の金融経済概況

### 1. 全体感

十勝の景気は、緩やかに持ち直しており、東日本大震災の影響による下押し圧力は緩和しつつある。

最終需要面をみると、公共投資、住宅投資は基調として弱めの動きとなっており、設備投資も抑制的となっている。一方で、個人消費は、震災の影響が和らぎ始めており、底打ち感がみられている。生産面でも、電気機械、木材等で、生産水準を引き上げつつある。

雇用は改善基調にあるが、企業倒産は増加した。

### 2. 最終需要の動向

#### (設備投資)

設備投資は、建築物着工床面積（4月、非居住用）が大型官公需の着工から前年を上回っているが、民間企業では先行きの不確実性を眺めた投資姿勢の慎重化から、今年度の投資計画は抑制的なものとなっている。

この間、建設資材の荷動きは、生コン、骨材等が引続き減少している。

#### (個人消費＜含む観光＞)

主要小売店の売上高（4月、10社）は、震災による家計マインドへの影響が残存するものの、防災関連商品や食料品等の販売が増加し、4か月連続して前年を上回った。

耐久消費財の売行きをみると、家電販売は、単価下落もあって、テレビを中心に買換えに伴う動意がみられる一方、乗用車新車登録届出台数（5月）は、震災後の生産・物流面からの影響が一部に残るため、依然として前年を下回っているが、減少幅が縮小している。

とちり帯広空港の旅客利用状況（5月）は、震災後の旅行手控え等から、前年を大きく下回ったが、減少幅が縮小している。

市内ホテルの宿泊客数（4月、8社）は、ビジネス客中心に堅調であったことなどから、前年を上回った。一方、十勝川温泉の宿泊客数（4月、4社）は、海外や道外等団体客の不振から、引き続き前年を下回った。

(住宅投資)

新設住宅着工戸数(4月)は、持家、貸家とも増加したため、6か月振りに前年を上回ったが、基調としては引き続き弱めの動きとなっている。

(公共投資)

公共工事請負金額(5月)は、一部大型案件の執行から、前年を上回ったが、基調としては、厳しい予算制約もあって、弱めの動きとなっている。

### 3. 生産・雇用・企業倒産の動向

(農業・食料品)

生乳生産量(4月)は、昨夏の気温上昇による影響等が残存し、前年並みに止まった。乳製品生産量(4月)は、原料である生乳の道外移出増等の影響から、引き続き前年を下回った。

農作物の生育状況(6月1日現在)は、低温や日照不足といった気象条件の影響から、秋まき小麦、ばれいしょ、ビート等全体的に平年比1~2日程度生育が遅れているが、先行き気象条件が好転するにつれて、生育状況が回復していくことが期待される。

(木材)

製材品の生産量(4月)は、エゾ・トドマツ材が建築需要の低迷等から減少している一方で、カラマツ材は自動車メーカーの生産回復に伴う梱包用材向けの回復から増加に復しており、全体では減少幅が縮小している。

(電力消費)

電力消費量(4月、除く電灯)は、機械器具等が減少したものの、飼・肥料、穀類乾燥貯蔵、電気機械、乳製品等が増加したことから、ほぼ前年並みとなっている。

(労働需給)

求職・求人状況(4月、常用)をみると、有効求人数の伸びが、有効求職者数の伸びを上回った結果、有効求人倍率は0.49倍と前年同月(0.44倍)を20か月連続して上回っている(+0.05ポイント)。

また、新規求人数がパート主体ながら医療・福祉、サービス業等を中心に22か月連続して増加している。

(企業倒産)

企業倒産(5月、負債額10百万円以上)は、件数3件、負債総額190百万円と、前年(0件)を上回った。

#### 4. 金融情勢

##### (預金動向)

帯広市内金融機関の実質預金残高（4月末）は、公金預金に加え、個人預金が個人向け国債償還金の流動性預金への歩留まり等から増加し、前年比増加幅がやや拡大している。

##### (貸出動向)

貸出残高（4月末）は、法人向けが総じて低調ながら、住宅ローン等個人向けが前年を上回り、2か月連続で前年を上回った。

この間、貸出約定平均金利（4月末、総合）は、銀行がほぼ前年並みながら、信金が上昇した。

##### (銀行券)

銀行券の動き（5月中）についてみると、発行額、還収額ともに前年比減少し、還収超額は39億円と前年（15億円）を上回った。

以 上